

為商民祈禱

度涉校古相并

打炮聲聲

仍古方一勝

程三塚仙塚之中

始

九月廿五日

終

新書
兼貞

特別
文庫12
84

佐々木義賢傳

定頼の子なり天文八年十月從五位
下に叙した京大夫に任せらる十七年
六月將軍足利義晴坂本に從居す
義賢之に從ふ十六年細川晴元兵を
率ゐ京師に入り東九条に次す義賢
亦た兵を率ゐてこれか援を爲す晴元
三好宗三の敗死を聞きて走る義賢
の部下近藤貞治長原太郎左衛門等
亦た各に敗を聞き隊伍を亂して潰走
す時に義賢數兵を聚めて北白川に屯
し義晴を奉じ神戶岡を歴て東坂本
常在寺に入る弘治元年義賢伊勢を徇へん
と欲し小倉三河守を遣し兵三千を率
て坂を攻めし守將三種忠治成すを行ひて四能む
永録元年將軍義輝を奉じて如志嶽に軍し
以て松永久秀と戦ふ累戦決せず相持す數
月に抵る是に於て義賢樽湊某を遣はして
三好長慶に説かしめ終に成さず行ひ義輝復た
京師に歸る四年七月義賢外甥細川晴元の
二男を立て家督となす以て三好黨を滅せ
と欲し畠山高政安見美作守遊佐河内守及
び根束の衆從之に應じ中尾城を構へ兵を起
して三好氏代たんと欲す八月長慶飯盛城に
在りて之を聞き其の黨を察し兵を率ゐて義
賢を白川に攻め相拒くと累日至に勝敗あり
而して義賢淺井長政を湖北に攻めて敗走す
十月義賢久秀と接戦數回長慶に就きて
復た成すを行ふ五年家督を子義弼に譲り
髮を削りて承禎と号し坂關齋と稱し相伴
衆に列せらる義賢射と吉田重賢に學び取
と者藤好玄に學び各其妙を得たり世に
其の取術を稱して佐々木流と云ふ(野史)

花押の數 五在 三 卷四十九五裏載